

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



保護者への「障害理解推進」出前講座



・潟上市立追分小学校3年生と本校小学部は、毎年「交流及び共同学習」を行っています。12月10日、追分小学校の保護者のみなさんに、交流の意義や様子を紹介するとともに障害理解を推進するために、「追分小学校PTA出前講座」を開催しました。

1 講座の内容

- (1) 学校間交流について（ねらい、実際の様子、成果と課題）
- (2) 天王みどり学園の紹介（各教科等を合わせた指導、知的障害や自閉症の紹介）
- (3) 障害の捉え方（「1/4の奇跡」図書の紹介）



2 保護者の感想

・障害は体ばかりでなく、目に見えないところにもあるということを改めて思いました。障害を引き受けてくれた人達がいたからこそ、健全な人が存在するという言葉は深く心に残りました。

・交流の具体的な内容やこれまでの交流による理解の広まりを知ることができてよい機会となりました。1/4の奇跡は何度聞いてもいいなと思いました。子どもに説明するときなども引用しています。

・自分自身の子どもが来年度3年生になるので、交流を積極的に行ってほしいと思いました。障害は個性である・・・、みんながってみんないい！という世の中になっていければより良い共生社会が築けると思っています。

・子どもに発達障害の診断があります。いろいろなことで悩み、子どもの叱り方など分かっていないもの、普通の子にできるだけ近付きたいと思いつつ厳しくしていました。その子の個性、特性と話していただいて、とても心が安らぎました。子どもをいい方向に行かせてやれたらと思いました。

・私たちの代わりに障害を引き受けてくれた人達が印象的でした。「お互いの特性を理解し認め合う」ことはとても大切なことです。それがみどり学園との交流で自然に身に付くようで、このような環境を作ってくれた先生方に大変感謝しています。

・自分と違うから、他人と違うからといって障害と決め付けて特別な存在としてみるのは間違っていることに気付かされました。まず①相手を知り②理解する③認める④支援するという段階を踏んでいくと心のバリアを取り除くことができると分かりました。

・娘がスーパーで「Kちゃんだ」と話し掛けたのが、みどり学園の子どもでした。Kちゃんはニコニコ手を振ってくれ、娘も嬉しそうでした。先日Kちゃんから手作りのミニツリーをもらってきたので大事に飾っています。子どもって素直に受け入れることができるんですね。これからも交流を続けてほしいです。

・みどり学園との交流で、大人も子どもも特性を理解して、もっと対応していけたらいいなと思いました。特別なことではないので、追分小学校でも活用できる対応の仕方だったと思います。是非、授業や生活に活かしていただきたいです。家庭でも分かりやすい言い方に意識して気を付けようと思います。

・みどり学園が隣にありながらどのような子ども達が通っているのか知らなかったのが、今回知ることができ、良い機会でした。交流のおかげで、子どもが障害に対する偏見が少なくなっているように感じています。これからも交流を続けてほしいと思います。機会があれば子どもと一緒にボランティアに参加したいと思っています。

・障害とは決して特別なものではなく、自分にも同じような部分があることを再確認できました。

・職場の同僚の子どもが天王みどり学園に通学しています。これまで同年代の子どもをもつ親として、互いの子どものお話を聞かせない状況でした。今日のお話を聞き、障害があっても同じ子どもなので、自然に話をしなければいけないと感じました。

○心のバリアは知らないことから生まれます。互いの多様性を認め合い、助け合いながら付き合うためには、いろいろな人がいるんだと知ることが第一歩です。保護者が障害に対する正しい知識をもつことは、子どもの障害理解と心のバリアフリーにつながります。12月20日、潟上市立天王中学校PTA講演会では、全校生徒と保護者を対象に演習や体験も交えながら障害理解を促すとともに、自分の思いを相手に聞かせるように、見えるように行動する大切さと呼びかけました。